



関西大学

# 大阪都市遺産研究センター

## NewsLetter

No. 9 2013 年 7 月 16 日

### 目次

道頓堀連続フォーラム開催	1
国際シンポジウム「台湾と日本の戦前・戦後」	2
「大阪の都市遺産—都市遺産の魅力をさぐる—」開講	2
センター協力事業「なにわユーモア画譜」開催	3
教育後援会総会における資料展示	3
三菱財団人文科学研究助成	4
新刊紹介	4

### 道頓堀連続フォーラム開催

センターでは、「近代大阪の失われた景観復元」をテーマとして、かつての芝居町から大きく景観が変化した道頓堀に焦点を当て、歴史学・建築学・情報学から調査・研究を進めている。その成果として、昨年度には、明治末期から大正初期の道頓堀の景観を CG で再現した「道頓堀五座の風景」を制作した。

今年 1 月、センターでは新たに発見された浪花座・角座などの設計図を含む「劇場大工 中村儀右衛門資料」を入手した。これを契機として、道頓堀商店会と本学との間で、連携協力協定が結ばれ、連携事業の一環として、道頓堀とともにかつて劇場が軒を連ねた千日前で「上方文化を育てる劇場」として親しまれる TORII HALL で、

「道頓堀連続フォーラム」を開催した。

1 月 29 日に開催された第 1 回フォーラムでは、「新発見！「道頓堀五座」資料の紹介—大阪の劇場大工 中村儀右衛門資料—」と題して、地元のみなさんに新出の中村儀右衛門資料を公開するとともに、同じく道頓堀で活躍した山田伸吉の作品が展示され、長谷洋一研究員・橋寺知子研究員・藤岡真衣氏（関西大学大学院）からの報告の後、高橋隆博研究員・黒田一充研究員も加わって、藪田貫センター長の進行でフリートークの意見交換会が行われた。道頓堀商店会の関係の方を中心に 70 名が参加され、山田伸吉の新たな作品が登場するなど盛況であった。



5月16日の第2回フォーラムでは、「中村儀右衛門資料による角座復元模型と新作CGの紹介」と題し、今年3月に本学環境都市工学部の学生が、中村儀右衛門資料をもとに、卒業制作として完成させた角座復元模型が展示され、橋寺研究員から制作の概要が報告された。また、林武文研究員から、新たに制作された道頓堀川

から芝居町へと至るCGが紹介され、現在、本学大学院総合情報学研究科の大学院生が制作中のインタラクティブ・コンテンツについて報告された。報告後のフリートークでは活発な意見交換が行われ、参加者は50名であった。

(特別任用研究員 櫻木 潤)

## 国際シンポジウム「台湾と日本の戦前・戦後」

国際シンポジウム「台湾と日本の戦前・戦後」が2013年3月15日に、国立台湾海洋大学海洋文化研究所と関西大学大阪都市遺産研究センターの共催で、台湾基隆の国立台湾海洋大学海洋文化研究所において開催された。大阪都市遺産研究センターにとっては海外で開催する初めてのシンポジウムであり、アジア地域への研究成果発信の場となった。

第一部では、安嘉芳国立台湾海洋大学海洋文化研究所副教授兼所長の研究発表「戦前基隆在東亜海運中的地位與城市發展」に続いて、大谷渡関西大学文学部教授の「台湾の中の戦後日本」、卞鳳奎国立台湾海洋大学海洋文化研究所副教授の「戦前の台北における鹿児島県籍の分布状況について」、橋寺知子関西大学環境都市工学部准教授の「台北の都市景観—近代を記憶する街」の研究発表が行われた。

第二部では、藪田貫大阪都市遺産研究センター長、関

西大学文学部教授の研究発表「近代大阪と泊園書院」に続いて、池田辰彰玄奘大学応用外語学系助理教授の「台湾総督府職員録からみた大正2年—台湾総督府職員の出身地と台湾人登用分析」、相良真理子大阪都市遺産研究センター研究員の「日本の近代化と渡辺霞亭一侍の子から新聞記者・小説家へ」、王海同研究センター研究員の「司馬遼太郎と『大阪新聞』」の研究発表が行われた。

なお、本シンポジウムは、平成24年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））「戦後日本の社会生活史と台湾—統治下に育った台湾人の日本認識とその変遷の記録化」（研究代表者大谷渡）の研究発表を目的として企画され、両研究所が協力して開催されたものである。当日は、大谷教授の研究協力者傅秀松さんや関西大学大学院生で国語学専攻の遠藤みどりさんが日本から参加するなど、充実したシンポジウムとなった。  
(R.A. 相良 真理子)



## 「大阪の都市遺産—都市遺産の魅力さをぐる—」開講

センターでは、2011年度から大学コンソーシアム大阪のセンター科目「大阪学」で「大阪の都市遺産」を開講している。今年度は、「大阪城」「中之島」「船場」「道頓堀」「天王寺と新世界」「住吉」「堺」といった大阪の中心部とその周辺部の「エリア」に焦点を当てて、大阪の都市遺産の魅力を紹介し、大阪府内のコンソー



シアムに参加する大学の学生のほか、多くの市民受講生が聴講している。

6月1日に行われた第6回目には、フィールドワークとして、かつては寺院が藪を並べ、葬送の地であった

千日前に昨年開創された千日山弘昌寺を訪れ、鳥居弘昌住職による講義の後、旭堂南海氏による講談「木津勘介」を鑑賞した。

(特別任用研究員 櫻木 潤)

## センター協力事業「なにわユーモア画譜」開催

4月20日から5月26日まで大阪市立住まいのミュージアム「大阪くらしの今昔館」で、企画展「なにわユーモア画譜～関西大学所蔵大坂画壇コレクションを中心に～」が開催された。主催は大阪くらしの今昔館・本学図書館で、センターは協力として携わった。

この展覧会では、本学図書館に所蔵する大坂画壇コレクションのなかから、耳鳥斎「十二ヶ月図」や林文波「百福の図」などの、滑稽でユーモアに富んだ作品から、中井藍江「槇檜群鹿図」や北野恒富「花の夜」といった優美な作品まで多彩なラインナップで構成され、本学図書館が所蔵する大坂画壇コレクションを幅広く堪能できる内容であった。

本展示に先立つ4月1日から8日には、本学総合図書館1階展示室で、「プレ展示 大坂画壇春爛漫コレクション」が開催された。キャンパスに桜が咲き誇る季節

にあわせて、本展示に出品された「花の夜」、月岡雪斎「美人観桜図」や生田南水「花見」などのほか、プレ展示のみの西山芳園「親子竹筍」、菅楯彦「桃花村」が出品され、まさにタイトル通り、春爛漫の雰囲気を醸し出していた。

(特別任用研究員 櫻木 潤)



## 教育後援会総会における資料展示

5月19日に、本学における平成25年度教育後援会総会が開かれた。子女の教育に関する意見交換や大きな関心事である就職問題など、大学と家庭の交流を図る恒例のイベントである。それに合わせて、学内の関連施設ではさまざまな見学活動が実施された。センターにおいても、一階のセミナー室で「芝居町道頓堀の景観復元をめざして」をテーマにした展示会が行われた。「道頓堀プロジェクト」の成果を公開し、道頓堀商店会と本学の連携協力協定の締結を記念する催しとなった。展示会では、山田伸吉による舞台を彩った背景画のデッサン

(2点)、芝居絵下絵(2点)、油彩芝居絵(3点)といった資料、新発見の劇場大工中村儀右衛門による建絵図・設計図(角座4点、浪花座3点、横井座1点)、角座復元模型、そして大正初年の街並みをCGで再現した「道頓堀五座の風景」など、かつて芝居町として賑わった道頓堀の面影を今に伝える資料や映像が数多く公開された。雨天にも関わらず、学生の父母や保護者、本学学長、理事長を含めた学内関係者など、計283人の来場者を迎えた。

(P.D. 王 海)



## 三菱財団人文科学研究助成

関西大学大阪都市遺産研究センターでは、第40回（平成23年度）三菱財団人文科学研究助成「新発見「豊臣期大坂図屏風」を中心としてそれに関連する作品群のアーカイブ化」（研究代表者：高橋隆博）の研究成果として、「豊臣期大坂図屏風」画像ビューア・「豊臣期大坂図屏風」人物データベース・DVD「秀吉の極楽橋～豊臣期大坂図屏風と竹生島宝厳寺～」を制作した。

「豊臣期大坂図屏風」画像ビューアは、屏風の画像を自由に拡大・縮小・移動して閲覧することができる。また屏風に描かれた場面・景観・構造物や人物・生業・風俗を検索する機能を備えている。

「豊臣期大坂図屏風」人物データベースは、屏風の人物493人について、「男・女・子供」「身分・職業・風俗」「服装」「意匠」「文様」「持物」に関する調査を行い、各人物の画像とあわせてデータベースソフト「FileMaker」で閲覧できるようにしたものである。

DVD「秀吉の極楽橋～豊臣期大坂図屏風と竹生島宝厳寺～」は、豊臣期大坂城の唯一の遺構とされる竹生島宝厳寺（滋賀県）の唐門に関する調査成果を映像としてまとめたものである。

（特別任用研究員 内田 吉哉）

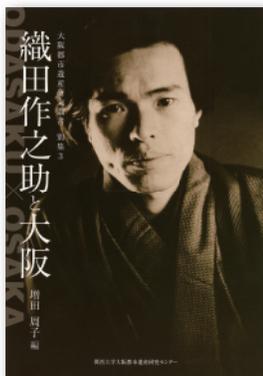
## 新刊紹介

この度、本研究センターより『大阪都市遺産研究 第3号』、大阪都市遺産研究叢書 別集2『大阪の小説家と映画』、大阪都市遺産研究叢書 別集3『織田作之

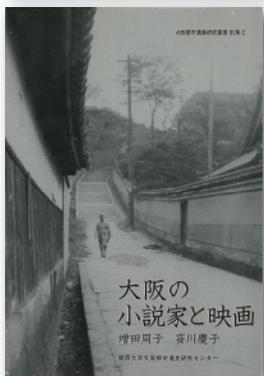
助と大阪』、『シンポジウム報告書「豊臣期大坂図屏風」の再検討』が刊行された。



『大阪都市遺産研究 第3号』、  
関西大学大阪都市遺産研究センター、2013年3月31日



増田周子編『織田作之助と大阪 大阪都市遺産研究叢書 別集3』、関西大学大阪都市遺産研究センター、2013年3月31日



増田周子・笹川慶子編著『大阪の小説家と映画 大阪都市遺産研究叢書 別集2』、関西大学大阪都市遺産研究センター、2013年3月31日



関西大学大阪都市遺産研究センター編『シンポジウム報告書「豊臣期大坂図屏風」の再検討』、関西大学大阪都市遺産研究センター、2013年4月30日

関西大学大阪都市遺産研究センター NewsLetter No. 9 2013年7月16日発行

発行・編集 関西大学大阪都市遺産研究センター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学博物館内

TEL 06-6368-0095 FAX 06-6368-0092

<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/osaka-toshi/>

mail [osaka-toshi@ml.kandai.jp](mailto:osaka-toshi@ml.kandai.jp)

